

科目名	成人看護援助論Ⅴ				
担当講師名	田中 千恵子	所属・役職	看護教員	資格・免許	看護師
授業形態	講義・演習	単位数・時間数	1単位 30 時間	開講年次	2 学年前期
講義の概要	<p>【大人を看護するための看護過程】</p> <p>○看護の現象には様々な成因が考えられ、成因間にも色々な関連性が見出される。看護行為の成果を実際の行動レベルでみるという意味で、関連図や NANDA・I 看護診断を書くことは人間を総合的にみていくことになる。関連図や NANDA・I と看護ケアの関係は、看護過程のどの段階においても、その都度見直されることによって、看護過程を適切に効率的に推進することができる。そのためその方法を学習する。</p> <p>○事例を通して看護過程を演習し、一連の展開方法、対象に必要な看護を導き出す考え方の筋道を学習する。</p>				
到達目標	○健康障害を抱える成人期にある対象とその家族に対して、各経過に応じた看護の特徴を理解し、実践できる能力を養う				
講義回数	講義内容				
1～5	<p>1. 成人期の全身麻酔で開腹術を受ける患者（急性期）の看護展開</p> <p>1) 病態関連図（シーケンス）</p> <p>2) 術後合併症のリスクと時間経過に合わせたアセスメントの視点</p> <p>3) 看護上の問題と優先順位</p> <p>4) 看護計画の立案、術後合併症に合わせた看護目標の設定</p> <p>5) 実施結果・評価の視点</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅰを想定した内容とする</p>				講義・演習
6～10	<p>2. 成人期の慢性期・慢性疾患患者の看護展開</p> <p>1) NANDA・I</p> <p>2) 看護モデルを踏まえたアセスメントの視点と看護上の問題</p> <p>3) 看護計画の立案</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅱを想定した内容とする</p>				講義・演習
11～15	<p>3. 成人・老年期の終末期患者の看護展開</p> <p>1) NANDA・I</p> <p>2) 人生の最終段階に合わせたアセスメントの視点</p> <p>3) 看護上の問題と優先順位</p> <p>4) 個別性と人生の最終段階に合わせた看護計画の立案</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅲを想定した内容とする</p>				講義・演習
教科書等	<p>教科書: 「成人看護学総論」 医学書院  「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」 中央法規  「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」 中央法規  「よくわかる周手術期看護」 学研 「臨床外科看護総論・各論」 医学書院  「緩和ケア」 医学書院  各疾患の教科書 医学書院</p> <p>参考図書: 「成人看護実習ガイドⅠ 急性期・周手術期」 照林社  「高齢者と成人の周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護」 医師薬出版株式会社  「基礎看護学 看護過程」の授業で使用した資料  適宜、資料配布</p>				
成績評価方法	出席状況、授業参加状況、課題により総合的に評価する。				
履修上の留意点	既習の病態生理学、看護過程、共通看護技術をふまえて授業に臨む。				
特記事項					

